

新調の目安25年

表替の目安10年

ウラ返しの目安5年



大阪府立とりかい高等支援学校

11月の文化祭に出店させていただいた縁もあり、学生とのつながりが出来ました。畳のフチを使った小物づくりを、支援学校の生徒さんが取り組んで、通帳とハンコが入れるポシェットを作り卒業生に渡すそうです。今後、若い発想でどのようなものを作るのか楽しみです。



精神障がい者と言われる人たちを受け入れて

昨年の11月から通算3人目となる就労訓練者を受け入れました。大人になってから精神障害を発症した人は、立ち直るのが難しく何度か発症を繰り返してしまう人が多いと、就労支援施設の方が言っていたのを覚えている。受け入れる側の理解が1番の力ギとなるのですが、小さな目標達成を積み上げて、自分に自信をもってもらう事と、自分を知ることが肝要となるのだと思います。

今まで就労体験に来た人すべてに共通することは、とっても真面目で、心がとてもモブアなところ。自分の心の中で作り出した「とても厳しい目で自分は見られている」という、妄想にも似たプレッシャーが自分自身を追い込んでいる点も3人に共通していた。自分の特徴を知り、客観視することができたら、目の前にある「脅威」も冷静な判断で乗り越えられるのだと思います。障がい者の方を受け入れることに、世間はまだまだ偏見のまなざしを向けますが、彼らは純粋な人間性を自ら体現して私たちに教えてくれるのです。いつも勉強させてくれてありがとうございます。



材料商の番頭さん 畳昔話 弐

S18年生まれの榎木「ナラキ」さん、疎開先の尾道は母方の実家で、イ草農家を営んでいた。小学生だったナラキ少年は、自分ができる範囲で家業を手伝っていた。農繁期には学校も農繁休みがあり、手伝いをした証としてハンコをもらっていた。でも遊びたい盛りの時です、手伝いの無い友達がうらやましかった。その当時の小遣い稼ぎは、親戚の山にマツタケが出ているので、それを農協に持って行き小遣いにすること。



マツタケは南側の斜面によく出ていた、一番高値がつくのは大きくて傘がっぼんでいる物、傘が開いている物や小さいものはほとんど値がつかないが、とりあえず持って行っていた。渋柿を一貫目ほど拾い集めて柿渋屋へ持って行ったり、生きていくための勉強や体験をする環境が、生活圏内に普通にあった。大阪には隣の農家、高垣さんの弟が空心町「現在の東天満」へ丁稚奉公に出ていた。ナラキ少年も中卒で大阪に行くよう言われていた。 つづく

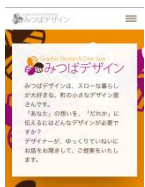


ゴトーたたみ製作所のページがあります。 いいね！をよろしく！
ゴトーたたみ製作所千里中央店のページも合わせてよろしく！！

(^_^)畳屋兄ちゃん通信 読者の皆さんへ(^o^)/ お手紙募集中

いつも通信を読んで下さってありがとうございます。私は文章を読むのが苦手で、読書も勉強もしてこないまま今に至っています。そんな私が文章を書いているから、自分の文章が変なのか まともなのか分からないのです。いつも私から一方通行なので、1回ぐらいお返事ください。最近、文章が長すぎる事を反省しています(^-^;)通信を読んで下さっている方たちから、感想文をいただけましたら幸いです。今後の参考にさせてもらいたいです。褒めてくれるだけでもいいですよ(笑)

- ・宛名: 畳屋兄ちゃん宛 〒560-0003 豊中市東豊中町5-35-7
- ・差出人 住所氏名 無しでもOK ・内容: 感想等 ☆住所ある方粗品プレゼント



ゴトーたたみ製作所オリジナル畳カルタ作りで制作の仲介役と総合プロデュースをして下さった

「みつばデザイン」さんのホームページが開設されました。

元々は広告を請け負うこじんまりとした仕事をされてましたが、

仕事の良さが口コミとなり成功されてます。[吹田市山田西みつばデザイン](#) [検索](#)

